



アドル《ヨーロッパの新しい地図 1870年》
神奈川大学図書館所蔵

目次

- 在日朝鮮人メディア研究の意義と資料紹介
ー 経済紙を中心に
(シリーズ・プランク文庫の世界②)
.....小林 聡明 2~3p
- 「はじめての STEP BULATS」とその意義
(シリーズ・自著を語る! ①) 平井 通宏 4p
- 新図書館への移転のころ
(シリーズ・神奈川大学図書館の歴史を語る! ②)
.....小林 孝吉 5p
- 【連載】図書館のススメ(その2)
神奈川県立図書館6p
- メディアと図書館
.....額賀 清孝 7p
- 図書館からのお知らせ8p
- 今号の表紙解説8p
- 編集後記8p

図書館のコトバ

その②「OPAC」

「OPAC」と書いて、「オーパック」と読みます。OPACは、Online Public Access Catalog の頭文字を取った略語です。

OPACとは、その図書館で所蔵している資料をコンピュータ上で検索することができる、データベースのことです。

神奈川大学図書館に限らず、公共図書館等多くの図書館でこのOPACを公開しています。神奈川大学図書館の場合は、インターネットに接続できるパソコンがあればどこからでも検索が可能ですし、携帯電話からも検索ができます。

在日朝鮮人メディア研究の意義と資料紹介-経済紙を中心に

小林 聡明

本稿の目的は、第一にブランゲ文庫に所蔵されている在日朝鮮人メディアを分析することの意義について素描し、第二にこれまでほとんど知られていないGHQ占領期日本で朝鮮人が発行した経済紙について紹介することである。

未完のプロジェクトとしての在日朝鮮人メディア研究

現在、私たちは新聞や雑誌、テレビ、インターネットなど、あらゆるメディアに囲まれながら、生活を営んでいる。一日24時間すべてを費やしても、これらすべてのメディアに目を通すことは不可能なほどである。氾濫するメディア状況のなかで、メディアにアクセスし、情報を得ることは、日常生活のありふれた光景となっている。メディア接触は、いとも簡単に実現してしまう時代となっている。だが、わずか60年前、多くの人々がメディア接触を渴望した時代があった。GHQ占領期である。

GHQ占領期には、さまざまなメディアが雨後の筍のごとく出現した。厳しい国家統制から解放された人々は、新しく創刊された新聞や雑誌に心をときめかせ、貪り読んでいた。ワシントンDC郊外に位置するメリーランド大学のブランゲ文庫には、1945年から49年までに占領下の日本で発行された新聞18,047タイトル、図書とパンフレット約71,000タイトル、雑誌13,799タイトル、報道写真約10,000枚、ポスター90枚、地図約640枚が収められている。ここでは朝日新聞などの全国紙から学校新聞にいたるまで大小を問わず、多様なメディアを目にすることができる。

メディア所有への情熱とメディア接触への欲望を抱いていたのは、何も日本人だけではなく、敗戦前後の日本社会には200万人以上の朝鮮人が暮らしていた。彼ら・彼女らもまた、自前のメディアを立ち上げようと心血を注いでいた。ブランゲ文庫にも、占領下で在日朝鮮人が発行したメディアが多数収められている。ブランゲ文庫には在日朝鮮人が発行した新聞124タイトル、雑誌24タイトル（改題による重複を含む）に加え、在日本朝鮮人連盟（朝連）が初等教材として発行した教科書を中心に書籍24点が所蔵されている^{*1}。GHQ占領下では、在日朝鮮人のメディアは決して無視できない存在となっていた。だが、これまでGHQ占領下の在日朝鮮人新聞や雑誌に関する研究は、ほとんど行われてこなかった。それは、日本社会の確固たる構成員である在日朝鮮人の存在を忘却していただけでなく、重層的であったはずの日本社会の構造を均質的なものと捉える危険性すら孕んでいることを浮き彫りにする。

以上の問題点を踏まえ、現在、私は占領期における在日朝鮮人メディアの研究に取り組んでいる^{*2}。いわば、ブランゲ文庫に眠る在日朝鮮人メディアから発せられる彼ら・彼女らの多様な「声」（Voices）を聞き取り、過去からなされている現在の私たちへの呼び掛けに応答する作業にはかならない。その意味において、在日朝鮮人メディア研究は、戦後60年以上にわたって在日朝鮮人に対して十分な応答をしてこなかった現代日本社会が抱える未完のプロジェクトの一つである。

在日朝鮮人による経済紙の発行

1945年10月10日、『朝鮮民衆新聞』が東京で発行された。解放後初の在日朝鮮人による新聞であった。以後、朝連や在日本朝鮮居留民団（民団）といった在日朝鮮人団体のほか個人などさまざまな発行者が、在日朝鮮人メディアの多様性を形作っていた。特に個人が発行した『国際タイムス』や『朝鮮新報』、『新世界新聞』の部数は約6～10万部を誇っており、日本人発行の中堅紙と肩を並べるほどの規模となっていた。このほか、英字紙や経済紙、科学紙が発行されるなど、在日朝鮮人メディアの状況は活況を呈していた^{*3}。現在、占領期に在日朝鮮人経済紙が、少なくとも11紙発行されていたことが確認されており、うち10紙がブランゲ文庫に収められている。以下、各紙の概要について記してみたい。

①『国際経済新聞』1947年2月25日・東京：日本語

李錫雷を社長とする国際経済新聞社が、朴律来を編集・発行人として創刊。同紙は、創刊にあたり、政治的、思想的な観点からではなく、実利的な観点に比重をおいて国際経済を報道する姿勢を打ち出していた^{*4}。『国際経済新聞』には、政治よりも経済、そして実利優先といった在日朝鮮人のリアルな状況認識を見ることができる。

②『朝鮮経済新聞』1947年5月11日・大阪：日本語

徐康家を編集・発行人として創刊。創刊目的は在日朝鮮人の商工人に対する指導と啓蒙におかれた^{*5}。記事の割合は、経済と政治で半分ずつを占めていた。経済ニュースでは、特に国際貿易が重点的に扱われた。同紙の政治的主張は、統一政府樹立と日本政府による在日朝鮮人差別の反対という二点に要約できる。

③『国際経済新報』1947年6月20日・大阪：日本語

金満赫を編集・印刷発行人として創刊。週刊で1万部発行。『国際経済新報』は、経済が生活安定のための中軸であり、それが人と人、民族と民族をつなぐ最も捷徑の担い手であると捉えていた。同

紙は「この担に堅実なる道徳性を帯びしめる事を永久平和への要諦とし、それに努力することが我等の最も崇高なる人道的使命である」*6との認識のもとで創刊された。

④『国際産業貿易新聞』1947年7月1日・大阪：プランゲ文庫所蔵なし：使用言語不明

GHQの報告書によれば、『国際産業貿易新聞』は発行人を馬鶴宣、編集長をアキヨシ・トミジ（漢字不明）で創刊。週刊で5千部発行。主な購読地域は、大阪、京都、神戸。同紙は、在日朝鮮人よりも商人や貿易関係者を対象読者とし、産業や貿易関係の報道に特化していた。GHQは、日本人発行の新聞と何らかわりないと分析していた。

⑤『週刊朝鮮貿易通信』1947年7月29日・東京：日本語

金允中を編集人として、週刊で創刊。GHQの報告書によれば、1947年9月から1948年4月まで停刊。詳細不明。

⑥『国際貿易通信』1947年8月以前（推定）・京都：日本語

発行人を金祥熙として週刊で創刊。1万部発行。後に『産業貿易通信』に改題。同紙は、国際貿易や織物産業に関する報道を実施し、京都の織物業者や国際貿易従事者向けの機関紙としての性格を有していた。GHQは、同紙を在日朝鮮人による新聞と分類したものの、社説には「我々日本人」という言葉が用いられており、日本人の観点から発行されているとも分析していた。

⑦『国際産業新聞』1947年8月下旬（推定）・東京：日本語

高應喆により月刊で創刊。「国際人たるの完成を-日本人諸賢にもとむ」*7との見出しを掲げた記事が見られることから、『国際産業新聞』の読者には在日朝鮮人だけでなく、日本人も対象にしていたことが推察できる。

⑧『商業タイムス』1948年4月20日創刊・東京：日本語

1946年9月20日に「経済的、基盤のなかった朝鮮同胞商人を統一して指導に当らうと組織された」在日本朝鮮商業連盟（商連）の機関紙*8。編集人を李将国、発行人を崔鳳太として、月刊で創刊。同紙は、在日朝鮮商業人の「商業上の参謀役」となり、「当面せる諸問題を、解剖研究し、未熟ながら、諸氏の参考資料の一端」の提供を発行目的に掲げていた*9。『商業タイムス』は、商連機関紙という性格上、在日朝鮮人のなかでも商業人という限定された読者層を想定していたことは明らかであった。

『商業タイムス』（1948年5月20日付）は、「隣邦・中華民国万歳 初代大統領蒋介石閣下宛 在日商連で祝詞文送る」との見出しがつけられた記事を掲載した。事実、商連は1948年5月20日に「抗日8年、遂に侵略的帝国主義日本を撃破した偉大なる世紀の指導者蒋介石大元帥閣下が貴国、民主新憲法下、貴国民の総意に基き、初大統領に御当選され、御就任に当り、在日本朝鮮商業連盟一同は

最大の祝福と敬意を表する」との祝辞を送っていた。同記事は、在日朝鮮人が在日中国人とどのような関係を取り結んでいたのかを示す一例として興味深い。

⑨『朝鮮商工時報』1948年6月1日・東京：日本語

関東朝鮮人商工会の機関紙。発行人・李在東、編集人・権勲として旬刊で創刊。本国の商工会、海外の貿易事業団との密接な関係を構築し、商工技術の啓蒙と取引の紹介が主たる創刊目的とされた*10。なお、1947年4月3日に発足した関東朝鮮人商工会は、在日本朝鮮人商工会連合本部、同関東本部を前身とする在日朝鮮人の経済団体であった。

⑩『朝鮮人経済時報』1948年6月15日・東京：日本語

東京朝鮮人商工組合連合会機関紙。李元植を編集・発行人として創刊。これまでの新聞が信頼性を欠いていたとの反省から、同紙は在日朝鮮人商人からの信頼の獲得すべく、「経済界のパロメーター」「基本活動の指針書」として「方向に迷える業者達を正しく導く灯台の役割」を目的に創刊された*11。同紙は、在日朝鮮人商工人に対して、困難な経済状況を打破するため日本の経済人や経済団体との連携および本国への貢献を呼び掛けていた。

⑪『朝鮮経済新聞』1948年8月1日・東京：日本語

国際政治経済研究所により、編集人を張承湖として週刊で創刊。国際政治経済研究所は、1948年12月の『国際タイムス』（国際タイムス社）解散後に組織され、国際タイムス社社長であった許雲龍が所長に就任していた。同紙は、1949年8月29日に『朝日経済新聞』に改題された。

経済紙分野に限っても、これまでほとんど知られてこなかった新聞がいくつも見受けられる。プランゲ文庫には、まだ多くの未見の在日朝鮮人メディアが眠っている。今後、プランゲ文庫史料の分析が進むにつれ、多くの「新発見」がなされるであろう。活動を始めたばかりの神大プランゲ文庫研究会は、こうした未開拓な史料群に挑む人々が集う場である。ここで生み出される今後の成果に是非、ご期待いただきたい。

（こばやし・そうめい 人文学研究所客員研究員）

*1 2008年7月現在、筆者確認

*2 拙著『在日朝鮮人のメディア空間-GHQ占領期における新聞発行とそのダイナミズム』風響社、2007年

*3 詳細は拙著をご参照いただきたい。

*4 『国際経済新聞』1947年2月25日付

*5 『朝鮮経済新聞』1947年5月11日付

*6 『国際経済新報』1947年6月20日付

*7 『国際産業新聞』1947年9月25日付

*8 『商業タイムス』1948年4月20日付

*9 『商業タイムス』1948年4月20日付

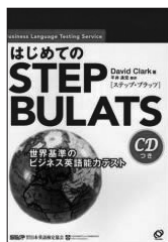
*10 『朝鮮商工時報』1948年6月1日付

*11 『朝鮮人経済時報』1948年6月15日付

「はじめての STEP BULATS」とその意義

David Clark 著；平井通宏訳 旺文社，2007年
B350.9-325（横浜） 670.93-217（平塚）

平井 通宏



世界標準に準拠した本格的なビジネス英語能力検定試験 STEP BULATS の解説・対策本である「はじめての STEP BULATS」を紹介します。

BULATS は、英国ケンブリッジ ESOL が最近開発したビジネス外国語能力検定試験で、英語、フランス語、スペイン語およびドイツ語版があり、欧州評議会（Council of Europe）が制定した言語教育・能力評価の国際標準である CEF（Common European Framework）に準拠した評価が行えます。特にその英語版は、現在「ビジネス英語」を標榜する試験が多数ある中で、最も実務に即している（それでいて、固有の専門知識が要求されない）ものです。この英語版 BULATS 試験は日本では（財）日本英語検定協会（STEP）（通称「英検」）がまとめて実施しており、日本での名称は STEP BULATS となっています。日本で受験できる約50種類の英語能力検定試験を自ら実際に受けてきた私自身の経験に照らし、STEP BULATS は、十分な信頼性と妥当性を備え、かつビジネス領域（ドメイン）を対象とした、日本実業界待望のビジネス英語能力評価試験とすることができます。ちなみにケンブリッジ ESOL は、世界の英語教育の頂点に位置づけられる英国ケンブリッジ大学に属する機関で、英語能力評価に関し百数十年の歴史をもち、ここで開発されたさまざまな英語試験は世界135ヶ国以上で広く実施されています。

語学能力評価を語るにあたって忘れてならないのは、受信型スキル（リーディング、リスニング、文法・語彙知識）と発信型スキル（スピーキング、ライティング）を区別することです。学校では非常に多くの学生の能力を安価に測定する必要から、どうしても受信型スキルの評価が中心になってしまいますが、企業での実務でより必要とされるのは、発信型スキルです。しかし、受信型スキルと発信型スキルは自ずと学習法が違いますので、受信型スキル中心の勉強では、発信型スキルは伸びません。この傾向は特にレベルが上がるにつれて顕著です。実際、受信型スキルだけの試験（例えば TOEIC®）で高得点を取っているのに、スピーキングやライティングは期待はずれ、という話をよく耳にします。最近私

自身が英検の協力を得て行った研究によれば、STEP BULATS ライティング試験成績と TOEIC 点数の相関係数は .69 であり、緩い相関しか期待できないことが判明しました（2008年5月の JALT（全国語学教育学会）Pan-SIG 大会で発表*¹）。さらに、TOEIC 800点以上取得者の STEP BULATS ライティング・レベルの平均は、0-5 の6段階中 2.86 で、国際的ビジネスパーソンに期待される最低限度（レベル 3）に届くのがやっと 50% という事実も問題として指摘されています。このように、受信型スキル中心の試験では社会のニーズに合っていません。実社会で真に意味のあるは、発信型スキル（特にビジネス・ドメインでの発信型スキル）を正當に評価できる能力評価試験なのです。

STEP BULATS には、受信型スキルに限定した試験（スタンダード・テストとコンピュータ・テスト）のほかに、スピーキングとライティングの試験がオプションとして用意されています。ユーザ（職場）のニーズに応じてこれらの試験を組み合わせることにより、よりバランスのとれた評価体制をとることができます。実際、STEP BULATS ライティング試験は現在、外資系企業および（株）日立製作所等、先見性のある多数の国際企業で導入されています。

2007年12月に旺文社から出版された本書は、英国ケンブリッジ大学出版局発行の原著 Essential BULATS（David Clark 著）の拙訳による日本語版で、厳密な意味では「自著」とは言えませんが、最近注目を集めている STEP BULATS の本格的な日本語版解説・対策本として初めて出版されたものであり、今後、ビジネス英語能力の向上を目指す人にとって頼り甲斐のある参考書です。

（ひらい・みちひろ 理学部非常勤講師）

*1 参照 URL <http://www.jalt.org/pansig/2008/HTML/Hirai1.htm>

【補足】

平井先生は、TOEIC®満点、STEP BULATS（CBT）満点、英検1級、ケンブリッジ英検CPE グレードA、国連英検特A級、日商ビジネス英検1級、商業英検A級、ビジネス英検A級、通訳案内業、工業英検1級、早稲田大学ーミシガン大学 TEP テスト 1級、ほんやく検定1級、知的財産翻訳検定1級等を含み、英語資格検定42冠（最上級 42個取得）を達成（日本記録として認定）されています。

新図書館への移転のころ

小林 孝吉

「新図書館」。すでに30年近くも経ったにもかかわらず、この言葉は私のなかで懐かしい響きとともに、いまも生きている。

「新図書館」——それは、当時20代、30代を中心に40人以上いた図書館職員にとって、どれほど誇りだったことだろう。陽に輝く傾斜した銅版屋根、レンガ造りの西洋風な堅固な外観、そしてはじめての開架式の閲覧室、世界各国の百科事典、パリ・コミュニケーション関連資料や近代の経済学・思想・宗教の初版本を収めた貴重書庫、グループ閲覧室、上階にいくほど静になる各閲覧室、音響にこだわったAV小ホールなど、どれもが私たち図書館職員が検討会を設置し、熱い議論を重ねてつくりあげた、そんな新図書館であった。

旧図書館から新図書館への移転、それは1978年の真夏の一大事業であった。旧図書館から道路をはさんで新図書館まで、職員の移転検討委員会のメンバーが作成した配置図面と梱包して番号の付された図書を、車輪のついたラックに入れて汗だくになりながら運び書架に配架する、何日かそんな作業を繰り返した。あの大移転作業は、新しい図書館の時代の幕開けのような期待感と、そんな時代を共有する一体感が、私たち図書館職員全体に自然と漂っていた。

移転後に開始された図書館業務は、真新しいコントロールカウンター、2階のリファレンスデスク、レコードをテープに録音し直して貸し出すAV資料室を担当した運用課、洋書・和書・雑誌の資料を整理する資料課、図書の購入・受け入れ業務の総務課、旧図書館同様この3課の専任職員がすべての業務を担当していた。

私は資料課の洋書目録担当であった。その頃、国際図書番号の付与、書誌データの図書への記載など、世界的には学術情報や出版をめぐる書誌情報の標準化が時代の流れとなっていた。本学の図書館では、職員は最新のIBMの電動タイプライターを使って、ひたすら一枚の目録カードに分類番号、著者・書名等の書誌データを、いかに目録規則どおりに記述するか真剣な情熱を傾けていた。ときに、目録作成方法で議論し、気まずい雰囲気か漂うこともあった。それもいまして思うと、若さといひたむきさのあらわれだったかもしれない。

この頃、書誌情報の標準化による、洋書目録作成の典拠となつて英米目録規則（AACR I）の改訂が行われ、第2版（AACR II）が出版されていた。日本では、まだ翻訳される前に、洋書担当スタッフは各章を分担して訳して発表し合い、いち早く第2版を導入した。このAACR II さえマスターすれば、図書ばかりでなく、どのような資料も目録として世界標準で記述できることを知り心強く思った。

新図書館に移ってからいまでも印象に残っているのは、図書館協会賞を受賞した貴重書目録『古典逍遙』の編集である。それは図書館所蔵の和洋の全貴重書を収録し、解説篇、目録篇と、著者・書名・主題ごとの精緻な索引を付した、私たちの目録技術の集大成であった。私はパリ・コミュニケーション関連資料を除く、洋書目録を担当した。これまで古今東西の英知である貴重書——ディドロ＝ダランベールの百科全書をはじめとした百科事典、スミス、マルサスなどの経済学の古典、17世紀以降の日本研究など、1冊1冊を丁寧に1ページづつ繰りながら、詳細な書誌データ、誤植や欠落、書き込みの有無、装丁の種類などを注記として記載した。国も言語も異なりながら、その本のもつ独特の香りや紙の手ざわり、激動の政治と社会をくぐりぬけてきた貴重書の個別なたたずまいに、文化や思想、学問が歴史の地下水脈として受け継がれていることに、ひそかに心うたれる瞬間があった。

また、AV小ホールを利用して、監督の講演を組み合わせた映画の上映会も記憶に新しい。特に、岐阜県北部の山麓に聳える樹齢1300年といわれる桜を撮った「薄墨の桜」は、羽田澄子監督の講演とともに印象深いものがあった。これまで時代の栄枯盛衰を見とどけてきた老木、薄墨色の桜の下に集う人々、四季折々の村の風景、そこからは永遠のときが映像を通して伝わってくるように感じられた。

「新図書館」に移転して30年——。私たちが図書館職員としての情熱をこめたカード目録はすでに消え去り、図書資料にはデータベースや電子ジャーナルが加わり、機関リポジトリという学術情報の公開もスタートする。海外の文献もILLサービスによって短時間で入手でき、図書館業務自体もある部分は業務委託へと移行している。だが、私にとって当時目録を作成した一冊一冊の図書の感触と「新図書館」の放つイメージは、少しも古くなつてはいない。それは図書館が何百年という歴史と文化を、未来へと伝える役割を担っていることと、どこかでつながっているのではないかと、いまにして思う。

（こばやし・たかよし 神奈川大学事務局長）



図書館のススメ (その2)

神奈川県立図書館



JR桜木町駅から国道16号線を北に進み、紅葉坂を登ると、神奈川県立図書館があります（駅から徒歩10分程）。昭和29年築の本館は、東京文化会館等も手がけた建築家の前川國男氏によるものです。館内の閲覧席は天井が高く、ゆったりしており、大きな窓からは桜やイチョウといった、四季折々の景色が望めます。とても気持ちのいい、落ち着いたオトナの滞在型図書館です。

神奈川県立の図書館は、県内に横浜と川崎の2館があり、横浜にある県立図書館では社会・人文系の資料を収集しています（川崎図書館では、自然科学・工学・産業系の資料を収集しています）。

神奈川県立図書館には、ウリがたくさんあります。1つは、「課題解決型のリサーチライブラリー」であることです。図書館内に利用者の質問・相談に応えるレファレンスカウンターもありますが、県立図書館ホームページから、メールで質問を出すことができます（もちろん、学生のみなさんも利用可）。2つめは、神奈川県資料の充実です。図書館新館4階には、「かながわ資料室」があり、神奈川県関連資料のあらゆるものがそろっています。神奈川新聞は発行当時からありますし、全国紙の「神奈川版」も保存しています。神奈川についての調べ物があった際は、利用価値大の図書館です。3つめは、「ベストセラーズ文庫」です。明治時代以降のベストセラーを保存しています。その他にも、さまざまな県民講座の開催や（名作映画会や、横浜地方裁判所から講師を迎えた裁判員制度に関する講演会等）、豊富な法律情報の提供（法律情報

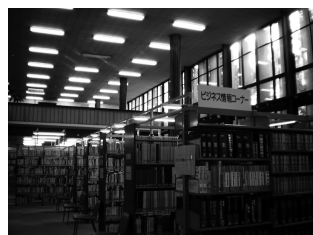
コーナーがあります）等を行っています。

リサーチライブラリーということもあり、利用者の多くが大学生以上のもので、館内は非常に静かで、調べ物に専念ができる環境です。図書他にビデオ・CDといった視聴覚資料の館外貸出も行っています。また、神奈川県立図書館と県立図書館は協定を結んでいるので、県立図書館に行かずとも、図書の取寄せが可能です。

学生のみなさんにとっては、今まであまり縁がなかった図書館かもしれませんが、これからは用途に合わせて是非利用してみてください。

神奈川県立図書館の職員の方より
学生のみなさんへ一言

「せっかく近くにあるので、何があるのか知って、活用してください。利用の際は返却期限を守る等、マナーを守って利用してください。」



神奈川県立図書館利用案内

開館時間

火～金曜 9:00～19:00
土・日・祝日 9:00～17:00

休館日

月曜（祝日にあたるときは開館）
第2木曜日
年末・年始
資料総点検期間（4月の一定期間）

利用者登録

県内に在住または通勤・通学者には図書館カードを発行しています。
名前・住所が確認できるもの（学生証・免

許証・保険証等）を持参の上、手続きを行ってください。

貸出

図書；10冊 3週間
視聴覚資料；6点 3週間

所在地

〒220-8585
横浜市西区紅葉ヶ丘9-2
Tel 045-263-5900



詳細は神奈川県立図書館のサイトを参照ください。
<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/index.htm>

メディアと図書館

額賀 清孝

19世紀中頃から20世紀前半にかけて、印刷メディア以外の様々なメディアが登場し、大衆化し、情報革命と呼ばれている社会変革をもたらした。21世紀はその情報革命がさらに進化している途上であることは周知の事実である。通信、ラジオ、映画、テレビ、衛星放送、コンピューター、携帯電話、インターネットと様々なメディアが登場し、デジタル化したメディアとして今日に至っている。

図書館もこの情報革命には無縁ではなく、旧来の印刷メディアである図書や雑誌だけでなく、テープやCDなどの録音資料、フィルムやビデオ、DVDなどの映像資料、インターネットを介してのOPAC検索、電子データベースなどの資料の収集と利用も進めている。マルチメディアに対応してきているのが今日のハイブリッドと呼ばれる図書館の姿である。

ところが問題は単に様々なメディアが登場し、生活が便利になり、娯楽も多様化したと言うことだけではない。マクルーハンが『メディアはメッセンジャーである』と言ったようにメディアそのものが単なる意味内容を伝達する中立的な道具ではない。メディアは道具として持つ特性を道具の使用者に押しつけてくる。メディアと言う道具は、車の様に具体的な人や物の流通にかかわるのではなく、人間のコミュニケーションに関わる道具であり、情報革命と言われるように情報の流通に関わっている。

最近のメディアはデジタル化しマルチメディア化の方向にある。それは情報の流通を急速に拡大している。人間のコミュニケーションは単に情報を伝達するだけでなく、知的創造・芸術的創造に関わるため、人間の創造活動の仕方に変化を与えている。また、それは象徴性を帯びるため、金融などの電子マネーとして実経済に甚大な影響を及ぼしているし、最近の自動車を含め機械そのものが電子化で制御され、ボスシステム等に見られるように商品の流通・購買情報・嗜好情報もコンピューターを通して把握されている。実経済においても無くてはならない存在になっている。つまり電子メディアが社会の隅々まで浸透しているのが、現代社会であり、単に道具というより、電子メディアが社会を規定していると言える。メディアが実経済に及ぼす影響の要は情報であり、人間の知的活動を含めて社会活動における情報の重要性は現代社会においては、必須の存在になっている。

図書館は従来、人間の知的活動に図書や雑誌などの印刷メディアによる情報の蓄積を通して貢献してきた。それが、コンピューターによる情報のデジタル化、マルチメディア化とインターネットなどの

通信と結びつくことによって大量の情報を蓄積し、瞬時に世界中に送ることが出来るようになった。電子図書館は技術的には可能になり、現在、図書館の電子図書館化が進行しているのが現状である。このことは、従来の印刷メディアを中心にしてきた図書館の機能と役割に大きな影響を与えることになり、単にこれまでの印刷メディアのほかに図書館が扱うメディアが増えていると言うレベルの問題ではなく、これまでの図書館機能の存立の質を問われる根本的な問題である。それが、メディア革命と呼ばれる情報社会における情報を扱う図書館のこれまでにない存在意味への問いなのである。

人間の知的活動・創造活動の基本はメディアの変化で変わることではないが、それを助け、表現する方法が多様化することによってこれまで困難な事が可能になり、知的活動・創造活動の幅が広がる可能性を含んでいる。最近学生のコピペと呼ばれるレポートの作成で、問題がでているが、これはそもそも電子メディアのハイパーテキスト性からでていることであり、避けることができない問題である。重要なことはこの電子メディアの特質を十分理解し、正しく使用すれば知的活動や創造活動において、これまでにない表現能力を上げることができることである。

究極的には現在の図書館の機能のうち、物理的空間としての研究・教育の場以外は、電子図書館化することは避けられないと思うが、当面、人間の知的活動において図書・雑誌の印刷物としての役割がこれまでのように変わらなければ、図書館は電子メディアと印刷メディアのハイブリッドの図書館としての役割をになうことになる。それでもグーグルなどの図書の電子化や機関リポジトリ、雑誌の電子ジャーナル化など電子図書館化の方向は少しづつ進んでいる、量が拡大していけば最後には質の変化となっており、変わるときは急速に変化する。

電子図書館が従来の図書館に変わるには、大きく三つの問題をクリアしなければ、本当の意味での電子図書館にならない。一つは図書・雑誌と同じようなインターフェースとそれ以上の利便性をもった端末の技術革新、二つは出版界の著作権問題をクリアした図書・雑誌に変わる電子図書のビジネスモデルの構築、三つはインターネットを通しての電子図書館での利用の自由が保障されなければ、現在の図書館に取って代わることがないであろう。その意味で21世紀の図書館は近代図書館としての役割の終焉と新たな図書館像を構築する過渡期となる。

(ぬかが きよたか 図書館総合サービス課長)

図書館からのお知らせ

◎ 資格・就職本・雑誌配布フェア

図書館で所蔵している、資格本、就職本関連資料の旧版、および一部雑誌を、下記日程で希望者に無料でお配りします。人気の資料はすぐになくなるのが予想されますのでお早めに！

期 間：10/6（月）～10/17（金）

対象資料：横浜図書館1階で配架している資格・就職本の旧版および古い雑誌（Hanako等）

開催場所：横浜図書館地下1階 休憩スペース

配布方法：入館資格者であれば、対象資料を自由に持って行って構いません。

◎ 展示「教育は人を造るにあり

―創立者米田吉盛と支えた人々―のご案内

下記日程で、「教育は人を造るにあり・創立者米田吉盛と支えた人々」展を開催します。

展示期間：2008年8月18日～10月31日

場 所：横浜図書館1階 展示コーナー

◎ ご存知ですか？図書館での利用マナー

最近、図書館の利用マナーを知らない、守らない利用者が目立ちます。図書館利用ルールは、神奈川大学図書館に限ったものではなく、公共のルールでもあります。マナーを守り、お互い気持ちよく図書館を利用してください。

◎ 図書館内での飲食、喫煙は禁止されています。

禁止されている理由は、下記のとおり理由があります。

- ① 飲食物のたべこぼしが、大学の共有財産である資料や設備の汚損、害虫発生の原因になる。
- ② 周囲に臭い等、不快感を与える。
飲食する場合は、食堂等へ、喫煙の場合は、館外横にある喫煙スペースをご利用ください。

◎ 館内での携帯電話での通話は禁止されています。

館内での通話は、集中して勉強している周りの利用者の迷惑になります。館内ではマナーモードにし、通話は館外でしてください。

◎ 館内で盗難が発生しています

最近、館内で盗難が発生しています。財布や荷物を机に放置したりしないよう、貴重品等の持ち物は、各自の責任においてきちんと管理してください。

編集後記

ここ毎月のように、クラシックのコンサートに行っている。多いときは月3回。もともとクラシックは好きだが、ホールに行っても聞くようになったのはここ最近のことだ。生の迫力を知ってから、すっかり病みつきになってしまった。

最近は海外オケの来日公演も結構多い。有名どころだとビックリする位の高額チケットになるが、あっという間に売り切れとなってしまう。今年11月に来日予定のベルリン・フィルのチケットは、発売から数10分で完売となってしまった（サントリーホールが一番安い席でも16,000円！）。確かにほぼ1回勝負の公演だから、それなりの価値はあるのだが・・・。

ただし、クラシックのコンサートすべてがこんな高額ではないのでご安心を。こんな額ではとても月3回も行くことはできない。一般席で3000円位、学生券がある場合は1000円代で楽しめることもある。そして、比較的ラフな格好で来る人も多い。公共マナーさえきちんと守れば、クラシックのコンサートはそんなに敷居の高いものではない。

最近は「のだめカンタービレ」（マンガおよびドラマ）の影響もあってか、神奈川大学図書館の視聴覚資料室でもクラシックの利用が目立つようになってきている。特に「のだめ」のライブCDは出ない日がないくらい、よく学生に利用されている。視聴覚資料室内のリスニングルーム（CDを聞く部屋）では、落ち着いた環境で音楽を楽しむことができ、学生の憩いの場となっている。

コンサートでも図書館のリスニングルームでも、楽しみ方はいろいろ。是非みなさんもクラシックにハマってみませんか？

(yoshiba)

今号の表紙

Hadol 《Nouvelle Carte d'Europe Dressee pour 1870》
アドル《ヨーロッパの新しい地図 1870年》

多色刷り石版画 43.8×60.2cm
神奈川大学図書館所蔵 パリ・コミュニケーション諷刺画の1枚。

イギリスは孤立し、スペインはポルトガルに寄りかかってタバコを吸い、フランスはプロシアの侵略を押し返す。ロシアはおとぎ話の鬼のよう。